

仙台沿岸エリア

仙台市 塩竈市 名取市 多賀城市
 岩沼市 亶理町 山元町 松島町
 七ヶ浜町 利府町



玉浦西地区のまちづくり事業の様子（岩沼市）

宮城県のほぼ中央に位置する仙台エリアのうち、沿岸部の市町は、仙台市、塩竈市、名取市、多賀城市、岩沼市、亶理町、山元町、松島町、七ヶ浜町、利府町の5市5町です。死者・行方不明者数は3,000人を超え、全国の市町村の中で最も住家被害が多かった仙台市を含め県全体の約7割に当たる165,000棟以上の住家が全半壊する深刻な被害を受けました。

平成25年度は、各市町で復興まちづくり事業が進められ、平成25年4月に県内初となる災害公営住宅への入居が仙台市及び山元町で実現しました。平成26年度も引き続き、各市町で新たな住まいの建設・入居が予定されています。また、津波被害を受けた農業では、被災農地の大規模ほ場整備事業の展開や、大型ハウスが立ち並ぶいちご団地・選果場が完成し生産が始まるなど、農業復興に向けた取り組みがスタートしています。



東北一の産地復活に向けて、100棟以上の大型ハウスでいちご栽培がスタート（亶理町）



荒井東地区に建設中の災害公営住宅（仙台市）

仙台沿岸エリアの被災直後・復興以前と現在

七ヶ浜町吉田花淵港周辺

津波被害を受けましたが、がれきが撤去され、港や漁業施設の復旧工事が進められています。



多賀城市桜木地区周辺

津波被災地域で、防災拠点機能や多世代が交流できる施設を併設する災害公営住宅の建設を進めています。



名取市関上漁港周辺

津波により甚大な被害を受けましたが、岸壁や漁港施設の復旧が進み、多くの船が着岸しています。



岩沼市海浜緑地周辺

津波被害を受けた海浜緑地を復旧し、自然環境に恵まれたレクリエーション活動の場として整備しています。



亶理町荒浜地区

津波により地区一帯が大量のがれきで埋めつくされましたが、撤去が完了し、背後では堤防が建設されています。



山元町新坂元駅周辺

津波による被災で運休中のJR常磐線を内陸に移設するため、新しい駅が建設される予定です。



仙台沿岸エリアの被害状況

	地域合計	県内合計
死者	3,374人	10,472人
行方不明者	97人	1,283人
全壊	41,529棟	82,911棟
半壊	124,832棟	155,086棟

〔平成26年1月31日現在〕

応急仮設住宅入居者数

	平成24年3月	平成26年1月
プレハブ住宅	14,429人	10,161人
民間賃貸借上住宅	37,108人	24,408人
計	51,537人	34,569人

〔平成26年1月31日現在〕

災害公営住宅整備(事業着手)状況

	平成26年2月
計画戸数	6,347戸
着手戸数	4,870戸
完了戸数	126戸

〔平成26年2月28日現在〕

2013年4月1日 月曜日
ようこそ！
仙台・宮城 DC 始まる (宮城県)

大型観光キャンペーン「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン (DC)」が4月1日、地元自治体や観光業者の期待を受けてついにスタートしました。キャッチフレーズは「笑顔咲くたび伊達な旅」、テーマは「花、食、復興・鎮魂」です。



2013年5月11日 土曜日
みんなのマルシェで
まちとヒトをつなぐ (多賀城市)



震災後、多賀城駅前で開催されている「みんなのマルシェ」。「震災によって気持ちが沈みがちだった人々に明るい気持ちになってほしい」「より多くの人が集まりつながりができてほしい」そんな思いで5人の若い女性が中心となって運営しています。

2013年8月23日 金曜日
継続する力～思い出がよみがえる
津波流失写真展示会 (仙台市宮城野区)

「世界に1枚しかない思い出の写真が持ち主の元へ帰りますように」と話してくれた「おもいでかえる」の野瀬香織さん。津波で流失し回収された写真の洗浄・ファイリング・公開・返却に今も、愛知と宮城を往復してメンバーとともに取り組んでいます。



2013年9月19日 木曜日
守りたい、美しい日本。 (仙台市若林区)

「乾くと塩で真っ白になる田んぼに水を入れて土と混ぜては水を抜く。それを何回も繰り返したんだよ」と農事組合法人代表理事の佐々木均さん。種もみや農機のほとんどを失いましたが、きれいな水と田園風景を守り続ける決意です。



2013年4月14日 日曜日
「かわぐつつあん」が帰ってきた！ (巨理町荒浜)

伊達政宗の重臣、巨理城主・伊達成実(しげざね)が、五穀豊穡と航海の安全、大漁を願い、阿武隈川河口の鎮守として勧進した古社、川口神社。津波で傷んだ御神輿の修理がようやく完了し、春の例祭で2年ぶりの雄姿を披露しました。



2013年7月2日 火曜日
揺るがぬ酒造りへの思い (名取市閑上)



創業明治4年、名取市閑上で酒造りを続けてきたこの酒造店では、酒蔵と店舗を震災で失いました。名取市復興工業団地内の仮設工場には、県外の蔵元から寄贈された設備も稼働しています。「復興とは継続すること」と専務の佐々木洋さんは考えています。

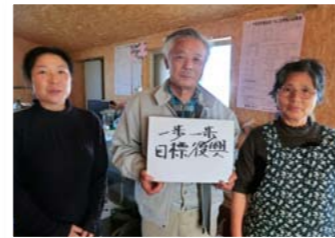
2013年8月31日 土曜日
災害公営住宅第1号。ここから始まる
新しい「まちづくり」 (山元町浅生原)

宮城県山元町に、今春、「災害公営住宅」の県下第1号が完成しました。「第1号という誇りもあります。いいまちにしていこう、とみんなで話し合っています」と、地区代表の岩佐磐石さん。新しい住民による、新しいまちづくりのスタートです。



2013年11月21日 木曜日
希望の赤い星。ありがとう「復興いちご」 (山元町)

「今こうしてあるのは、1000人を超えるボランティアの人たちや仲間、行政が背中を押してくれたおかげ」と、いちご農家の菅野孝雄さん。震災の年のクリスマスに奇跡のように間に合ったいちごは、「復興いちご」と呼ばれています。



2013年12月5日 木曜日
カキ生産者とともに復興を目指す (塩竈市)



カキや牛タンなどを取り扱う塩竈市の加工食品会社。津波で建物や設備、商品が被災しましたが、それ以上に大きな打撃だったのは、仕入れ先である産地の壊滅的惨状でした。いま、生産者とともに復興を目指しています。

2013年12月5日 木曜日
「東北一のいちご産地」が本格復活 (巨理町)



いちご栽培農地の90%以上が流失した巨理町。多くの支援によって68ヘクタールもの「いちご団地」をスタートさせました。「苗は津波で流されても、気持ちは流されてねえ」「いちごの復興が巨理の復興！」張り切る笑顔が、ハウスに降り注ぐ陽光のなかに輝いています。

2014年1月15日 水曜日
「救え!! 故郷の証」
文化財レスキュー事業 (多賀城市高崎)



「被災文化財の復興はその地域の営みの歴史を復興させることであり、人々が大切な地域を思う心の復興であると信じます」と東北歴史博物館の佐藤憲幸さん。「文化財レスキュー事業」がこれまでに救出した文化財は十数万点にものぼります。

2014年2月2日 日曜日
今年も元気に「復興・未来かき祭り」 (松島町)



東北地方屈指の観光地・松島は、日本有数の「かき」の産地でもあります。冬のかき祭りは震災でも中止されることなく続き、今年で36回を数えます。特に今年は、地域再生への願いと、多くの支援に感謝をこめて「松島復興・未来かき祭り」として行われました。

2013年12月1日 日曜日
明けない夜はない！
「ゆりあげ港朝市」グランドオープン！ (名取市閑上)

「やっとできました。これからもよろしくをお願いします！」平成25年5月に現地で再開した「ゆりあげ港朝市」。12月1日、新施設3棟が加わって、グランドオープンしました。「かたちを変えながらも、夜は確実に明けていくんですね」誰かがつぶやいたステキなひと言が印象的でした。



2013年12月21日 土曜日
毛糸の絆を世界へ (七ヶ浜町)



七ヶ浜町の高台にある高山地区は「日本三大外国人避暑地」の一つ。ここに住む2人の女性が、「シチガハマの皆さんと一緒に楽しみを見つけないかと、編み物クラブを始めました。出来上がった作品を海外の被災地に届ける取り組みも行っています。」

2014年2月11日 火曜日
地域の真ん中に笑顔が集う
～岩沼「みんなの家」 (岩沼市押分)

震災前は豊かな農地だった玉浦地区。50を超える法人や個人が資金と資材を提供し、東京のIT企業が無償で運営・管理している岩沼「みんなの家」は、農業の復興支援を継続していく拠点でもあり、子どもから大人までITを体験して学べる集いの場でもあります。



2014年2月7日 金曜日
「利府のわかめ」復活に力を合わせて (利府町赤沼)

宮城県利府町の授産施設「海人の里」。地域の産業である「わかめ」の復興と豊かな海の再生、自分らしく生きられる地域社会の実現に今日も力を合わせて張り切っています。

